

華頂短期大学総合文化学科

1 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

総合文化学科では、日本文化・現代文化における知識を学び、社会人として基本的教養があり、地域、社会に貢献できる基礎力と技術力を有する職業人を育成することを目的とし、以下の能力を身に付け、所定の卒業要件を満たした者に短期大学士(文化学)の学位を授与する。

- (1) 知識・理解
 - ・日本を中心とする伝統的・現代的な文化的事象に関する知識を有している。
 - ・人文・社会・宗教について、豊かな教養を有している。
- (2) 汎用的技能
 - ・社会生活において、日本語表現を適切に使用することができる。
 - ・社会人として求められる情報通信技術(ICT)を活用できる。
 - ・広い視野と根拠に基づいて、客観的に判断できる。
 - ・主体的に問題を発見し、課題解決に向けて具体的に取り組むことができる。
 - ・多様な人々とコミュニケーションを図ることができる。
- (3) 態度・志向性
 - ・自己実現に向けて主体的に行動することができる。
 - ・目標達成のために、他者と協調して協働することができる。
 - ・社会のルールや自己の良心に従って、行動することができる。
 - ・自らの専門的知識を活かし、多様な価値観の中でリーダーシップを発揮できる。
 - ・卒業後も学び続け、自らの知識・技能を向上することができる。
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
 - ・獲得した幅広い教養から、地域社会、地域文化の持続可能な発展に貢献する力を有する。

2. 教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)

総合文化学科では、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、全学科共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育内容、教育方法、学修成果の評価については次のように定める。

1. 教育課程・授業・学修方法の在り方

- (1) 知識・理解
 - ・「日本文化」「現代文化」の領域を中心に、豊かな教養の基盤となる知識・理解に関する科目を配置する。
- (2) 汎用的技能
 - ・総合文化科目群を中心に、各領域に職場や地域で活躍するために求められる力(日本語表現、ICT活用、論理的思考、問題解決、コミュニケーションの力等)を育成する科目を配置する。
- (3) 態度・志向性
 - ・キャリアデザインや相互理解をテーマとしたキャリア関連科目群を中心に、各領域に主体性や協働性を高めることを目的としたアクティブ・ラーニングを重視する科目を配置する。

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

- ・1年次の「基礎ゼミナール」、2年次の「創作表現演習」において、自らの学習の成果をまとめ、地域社会、地域文化の発展に貢献する力を育成する。

2. 学修成果の評価方法

- ・講義、演習、実技、実習をとおして知識・理解を深め、学修の過程を含めた成果全体を把握し総合的な実践力を筆記試験・レポート・口頭発表等により評価する。
- ・GPAによる客観的な評価基準を適用する。

3. 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

総合文化学科では、次のような優れた人を求めています。

(1) 知識・理解

- ・入学後の修学に必要な高等学校卒業相当の基礎学力(特に国語)を有している。

(2) 思考・判断

- ・温かな人間性と豊かな感性、主体性、倫理観、コミュニケーション能力を高めたいと考えている。

(3) 関心・意欲・態度

- ・身近な生活文化や現代文化、伝統芸能・文化に関心がある。
- ・基本的なマナーと自己管理能力を有し、これからの社会を生きていく上で地域社会において幅広く活躍するために努力できる。

(4) 技能・表現

- ・豊かな表現力やコミュニケーション能力とともに、協調性を備えた社会人としての基礎力を身に付けたいと考えている。